

## □研究論文(依頼稿)□

## 医療福祉における国際貢献, 国際協力のあり方

永山 正雄<sup>1</sup> Gemmalynn B. SARAPUDDIN<sup>1</sup> 梁 成勲<sup>1</sup>  
上原 燈紀子<sup>1</sup> 佐藤 哲夫<sup>1</sup> 寺岡 慧<sup>2</sup>

## 抄 録

医療福祉における国際貢献, 国際協力には, 国際学術交流・貢献のほかにも, 現地における医療支援・指導, 公衆衛生や医療政策上の協力など多職種による多種多様な活動があるが, そのいずれにも関与・精通することは通常困難である。本研究では, 医療福祉における国際貢献の全体像を抽出し, その課題を明らかにするために, 世界的に利用されている Web 上のオンライン調査ソフトウェアを用いた国際意識調査を行った。結果を解析した結果, 医療福祉における国際貢献, 国際協力を行うために, コミュニケーション能力と技術を有する良き臨床医を育成する医学教育, 多職種による現地医療支援・指導, 現地の需要・希望に応える on-the-Job トレーニング環境醸成・拡充, 先進国における卒後臨床・研究指導, 語学教育・翻訳がとくに重要であることが示された。

キーワード: 医療, 福祉, 国際貢献, 国際協力

## I. はじめに Introduction

これまでに筆者らは, 専門とする領域のみならず, 医学会間学術提携等の国際交渉, 診療ガイドラインの国際共同比較, 国際合同シンポジウム開催, 訪日医師団受入れ, 医学英語教育をはじめとする国際学術交流・貢献にも取り組んできた。また学内, 病院内における日常診療, 研究活動にあたっても, 米国, 韓国, フィリピン等の出身, あるいは医学校卒業生と, 連日, 英語によるカンファレンス, 回診を行っている。しかしながら, 医療福祉における国際貢献, 国際協力には, これらの国際学術交流・貢献のほかにも, 現地における医療支援・指導, 公衆衛生や医療政策上の協力など多職種による多種多様な活動があるが, そのいずれにも関与・精通することは通常困難である。

本研究では, 医療福祉における国際貢献の全体像を抽出し, その課題を明らかにするために国際意識調査を行った。結果を解析した結果, わが国, 本学の今後の国際貢献, 国際協力を構築する上で重要な知見を得たので報告し, 議論の糧としたい。

## II. 方法 Methods

世界的に利用されている Web 上のオンライン調査

ソフトウェアである SurveyMonkey を用いて, 医療福祉における国際貢献全般に関する意識調査を 2015 (平成 27) 年 8 月 7 日から同月 23 日の 17 日間, 行った<sup>1)</sup>。質問事項は, プロフィール (年齢, 性別, 居住国, 職種) のほか, ①国際貢献が求められる領域, ②これまでに行われた最も良いモデルケース, ③臨床教育面における国際貢献上, 最も重要なもの, ④医療福祉における国際協力に携わる者に求められるもの, ⑤援助者と現地人がともに同じゴールを目指す関係を築くために最も重要なこと, ⑥日本で開設予定の新たな国際医学部に何を期待するかに関して尋ねた。回答はプルダウンメニュー等による選択, ランク付け, 記述により, 回答結果を層別に解析した。

## III. 結果 Results

解析結果を以下に示す<sup>2)</sup>。

## 1) 回答者の年齢

30 歳代 41.8%, 20 歳代 25.3%, 40 歳代 12.7%, 50 歳代 10.1%, 60 歳代 6.3%, 80 歳代 2.5%, 10 歳代 1.3% の順で, 比較的若い年齢層が多かった。

## 2) 回答者の性別

女性 61.0%, 男性 39.0% と女性が多かった。

<sup>1</sup>国際医療福祉大学熱海病院 脳卒中・神経センター 神経内科

<sup>2</sup>国際医療福祉大学

## 3) 回答者の居住国

日本 68.8%, 日本以外のアジア 24.7%, 北米 2.6%, 南米 2.6%, 欧州 1.3% の順であった。

## 4) 回答者の職種

医師 34.6%, 看護師以外のコ・メディカル 26.9%, 看護師 16.7%, 一般市民 11.5%, 大学生 7.7%, その他 10.3% の順であった。

## 5) 国際貢献が求められる領域(ランク付け回答)(図1)

「臨床」を最重要とした回答者が最も多く 32.3%, 次いで「公衆衛生」27.0%, 「研究」24.2%, 「教育」13.1% の順であった。

## 6) これまでに行われた医療福祉に関する国際貢献の中で最も良いモデルケース(自由記載)(表1)

国境なき医師団の取組み 10 人, 新型インフルエンザ・Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) への取組み 6 人, エボラ出血熱への取組み 4 人, 国際協力機構(JICA)の取組み(国際医療福祉大学による中国で

のリハビリテーション教育を含めて, との回答例を含む) 2 人, 赤十字社の取組み 2 人, ほかの順であった。

## 7) 臨床教育面における国際貢献上, 最も重要なもの(複数選択可)(図2)

On-the-Job トレーニングが 72.7% と圧倒的に多く, 次いで先進国における卒後教育 51.5%, Off-the-Job トレーニング 25.8%, ほかの順であった。

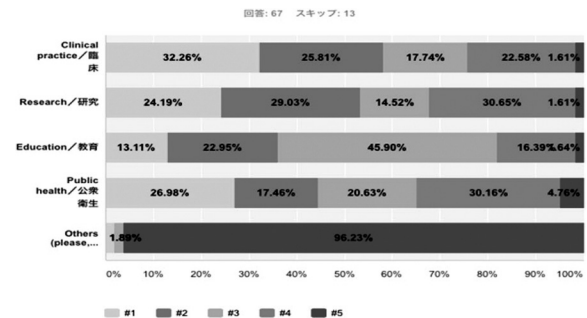


図1 国際貢献が求められる領域をランク付けして下さい  
Please, rank the important field where int'l contribution is required

表1 これまでに行われた医療福祉に関する国際貢献の中で最も良いモデルケース

Please, describe the best model case of int'l contribution in the field of health and welfare ever performed

国境なき医師団の取組み Efforts of Doctors without Borders	10 persons
新型インフルエンザ・SARS への取組み Efforts for Pandemic influenza or SARS	6
エボラ出血熱への取組み Efforts for Ebola hemorrhagic fever	4
国際協力機構(JICA)の取組み; 中国でのリハ教育含む Efforts of JICA including rehabilitation education in China	2
赤十字社の取組み Efforts of Red Cross Society	2
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の取組み Efforts by UNHCR	
開業医 Snow によるコレラ菌同定 Identification of Vibrio cholerae	
自然災害発生時の各国ボランティア Int'l volunteers for natural disaster	
国際ボランティア募金 Int'l volunteer donation	
医療船 Efforts of ship for medical service	
研究・教育への国際的貢献 Int'l contribution for research and education	
四川地震への医療貢献 Medical contribution for Sichuan earthquake	
ユニセフによる母乳育児普及 Spread of breastfeedings by UNICEF	
在留外国人の診療 Clinical practice for foreign residents	
WHO Guidelines Guidelines by WHO	

8) 医療福祉における国際協力に携わる者に求められるもの(ランク付け回答)(図3)

「人格」を最重要とした回答者が最も多く31.8%, 次いで「技術・手技」26.7%, 「コミュニケーション」21.9%, 「語学能力」16.1%, 「財力」4.9%の順であった。

9) 援助者と現地の人が同じゴールを目指す関係を築くために最も重要なこと(自由記載)(表2)

コミュニケーションが33人と圧倒的に多く、次いで教育11人、経済的支援7人、ほかの順であった。

10) 日本で開設予定の国際医学部に何を期待(ランク付け回答)(図4)

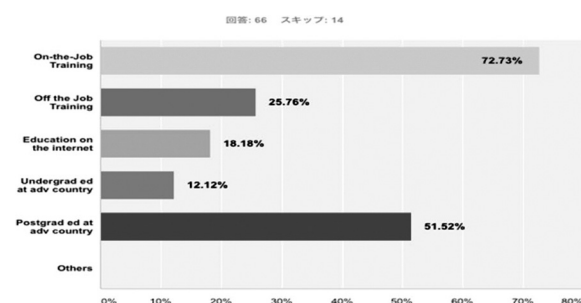


図2 臨床教育面における国際貢献上、最も重要なものはどれですか? 該当するものをすべて選んで下さい  
Which is important for the int'l contribution in the field of clinical education? Please, choose the best (multiple answers)

「良き臨床医(の育成)」を最重要とした回答者が圧倒的に多く64.9%, 次いで「良き教育者(の育成)」17.0%, 「良き研究者(の育成)」12.1%, 「良き医療政策立案者(の育成)」8.2%の順であった。

#### IV. 考察 Discussion

医療福祉における国際貢献, 国際協力には, 国際学術交流・貢献, 現地における医療支援・指導, 公衆衛生や医療政策上の協力など多職種による多種多様な活動があり, 政府, 厚生労働省, 外務省, JICA, 日本赤十字社, 国立国際医療研究センター, 国境なき医師団を

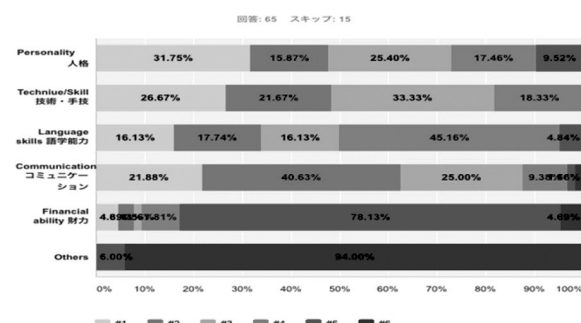


図3 医療福祉における国際協力に携わる者に求められるものは? 重要な順に  
Rank the requisite for those involved in int'l contribution in the field of health & welfare

表2 援助者と現地の人がともに同じゴールを目指す関係を築くために最も重要なことは?  
Please briefly describe what is most important to motivate the int'l helpers and natives to work together for the same goal

コミュニケーション	Communication	33 persons
教育	Education	11
経済的支援	Financial support	7
現地政府の援助・受入れ体制	Support of local government	6
情報・目標の共有	Sharing of information and objectives	4
現地人の人格受容・理解	Understanding of personality of native persons	2
語学力	Language ability	
リーダーシップ	Leadership	
パッション	Passion	
同等な立場	Equality	
プロとしての持続的成長の機会	Opportunity for continuous professional growth	
世界的競争	Global competitiveness	
		One person, respectively

はじめとするさまざまな組織が多様な活動を行っている。筆者らの国際医療福祉大学も、中国でのリハビリテーション教育、ベトナムにおける国際協力をはじめとして、医療、福祉における活発な国際貢献、国際協力を展開してきた。しかしながら、国内外における一組織、一個人がこれらの多様な活動のいずれにも関与・精通することは到底困難であり、現在における全体像の俯瞰、国際貢献や国際協力の現状とあるべき姿、受給者や現地の需要を評価することはきわめて重要である。

本研究は、短期間における小規模な研究であるが、これまでの筆者らの国際学術交流・貢献の経験を活かして、医療福祉における国際貢献の全体像を抽出し、

その課題を明らかにするべく国際的な意識調査を行ったものである。今回の検討により示された医療福祉における国際貢献、国際協力を行う上で重要なことを表3にまとめるが、これからわが国に設立される国際医学部が果たすべき役割の一端、方向性が示されたともいえよう。すなわち重要なことは、1) コミュニケーション能力と技術ある良き臨床医を育成する医学教育：現地の人の人格受容・理解が大切、2) 多職種による現地医療支援・指導、3) 現地の需要・希望に応えること：On-the-Job トレーニング、先進国における卒後臨床・研究指導、4) 語学教育・翻訳：先進国における教材、ガイドライン等の教育・翻訳、5) 国際貢献を行いながらさらなるわが国の発展につなげること：現地の方々に心からの支援を行ってれば、結果的にわが国の発展につながると期待される。

一方、国際貢献、国際協力が成立するためには、国家間の文化、制度、習慣の相互理解が求められる。あらゆる階層で国際貢献、国際協力が自然に受け入れられ歓迎される場合も多いが、国、地域によっては状況が大きく異なり、国際貢献を政治的貢献と民間的貢献に分けて受け入れる国さえある。例えば、アジアのある国における筆者らの一人の経験では、医師数が充足しているこの国では、嫌日感情が大きくなっていた最中の大地震の際の日本の医療隊の活動はメディアで繰り返し

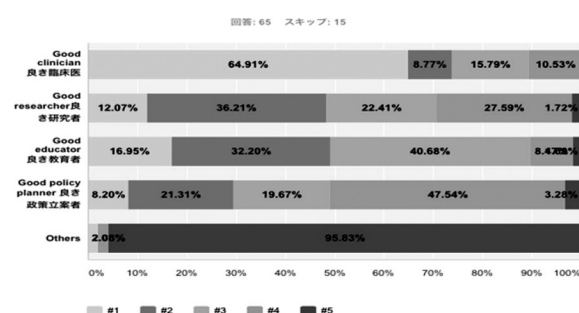


図4 日本で開設予定の国際医学部に何を期待？  
ランク付けて下さい。  
What do you expect from the int'l med sch to be founded in Japan? Please, rank

表3 医療福祉における国際貢献、国際協力を行う上で重要なこと  
Critical issues in int'l contribution in medical welfare

コミュニケーション能力と技術ある良き臨床医を育成する医学教育
Med edu for nourishment of good physician with communication ability, techniques, and skills
現地の人の人格受容・理解 Understanding of personality of native persons
多職種による現地医療支援・指導 Multidisciplinary on-site med assist and edu
現地の需要・希望に応える Response to actual demand and wish
On-the-Job トレーニング On-the-Job training
先進国における卒後臨床指導 Post-graduate clin edu at adv country
先進国における卒後研究指導 Post-graduate research edu at adv country
語学教育・翻訳 Language edu and translation
国際貢献を行いながら、さらなるわが国の発展につなげる
Development of ourselves through int'l contribution

返し報道され、国内のネットでは日本は絶賛されて国民の意識改革の役に立った。当時の状況からは、その国が日本の支援を受け入れたことは政治的な意味合いが強く、医療を通じた国際交流であったと思われ、受け入れる側とのコミュニケーションが成功した例となった。また現地の習慣や文化を理解していない場合、コミュニケーションが上手にいかないことがあり、実際、現地の言語を習得した医師はコミュニケーションも成功した印象があった。

他方、先進国における教育にも大きな課題が生じている。日本で学び、帰国した者は医療機関の指導者となり、日本式の制度を取り入れたり、日本で学んだ技術を広め、また後進を日本へ留学させるルートを築いた医師達も多くいる。しかし、日本における学習に適応できなかつたり、真面目に勉強できず精神面で辛くなり本国に逃げ帰った例など、資質に問題がある例も少なからずあり、人材選抜時の選定方法や受け入れ施設の他国への理解の必要性が問い質されている。

いずれにしても今後、今回のような国際意識調査を、規模を大きくして定期的に行うことは、医療福祉における国際貢献、国際協力を行う側、受ける側にとって欠かせない情報となるであろう。わが国からの真に効果的で国家間の友好にも資する国際貢献、国際協力が

各国で行われることを願ってやまない。

## V. 結論 Conclusion

医療福祉における国際貢献、国際協力を行うためには、コミュニケーション能力と技術を有する良き臨床医を育成する医学教育、多職種による現地の医療支援・指導、現地の需要・希望に応える on-the-Job トレーニング環境の醸成と拡充、先進国における卒後臨床・研究指導、語学教育・翻訳がとくに重要である。

## 謝辞 Acknowledgements

本研究に関して、ご助言、ご協力をいただいた国立大学法人和歌山大学国際教育研究センター参事、独立行政法人国際協力機構（JICA）前課長の竹内智子氏、国際医療福祉大学大学院赤居正美副大学院長に感謝申し上げます。

開示すべき conflict of interest (COI) 関係にある企業・団体等はありません。

## 文献

- 1) <https://www.surveymonkey.com>
- 2) [https://jp.surveymonkey.com/create/?sm=nQKiX3JFRe7dTsjDHVNwYUy5n4s3XXOYd\\_2Bq41pEmjzQ\\_3D](https://jp.surveymonkey.com/create/?sm=nQKiX3JFRe7dTsjDHVNwYUy5n4s3XXOYd_2Bq41pEmjzQ_3D)